

2 指導の工夫・改善

領域	昨年度の状況と本年度の傾向	今後の指導の重点
数と式 (72.8%)	・平均正答率は、昨年度とほぼ同じである。式の計算はよく理解できているが、文字式の値の理解は不十分である。また、文字の利用や、連立方程式の利用の理解も不十分である。	・連立方程式を学習する際に、等式の性質を理解させてから連立方程式に取り組ませる。また、授業のはじめに簡単な計算問題を復習し、繰り返させることで連立方程式の計算力や式の計算力を身につけさせる。
図形 (86.3%)	・平均正答率は、昨年度とほぼ同じである。平行線や多角形の角についてはよく理解できているが、三角形の合同条件の利用については理解が不十分である。	・合同な図形を用い、それらの中で等しい辺や角の関係を見つけ出させ、合同条件を利用させる。また、それらを記述させることで、証明の定着を図る。
数量関係 (61.7%)	・平均正答率は、昨年度とほぼ同じである。一次関数の式についてはよく理解できているが、一次関数の利用や2つの直線の交点と連立方程式の解との関係の理解が不十分である。	・グラフから直線が一次関数であることを理解させたり、連立方程式の解が、一次関数の交点の座標であることを理解させる。また、ともなって変わる2つの数量の関係を見つけ出し、それらの関係が一次関数であることを理解させる。
領域名 (平均正答率)		